

# あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」に関するお詫びと報告



津田大介 [Follow](#)

Aug 15 · 22 min read

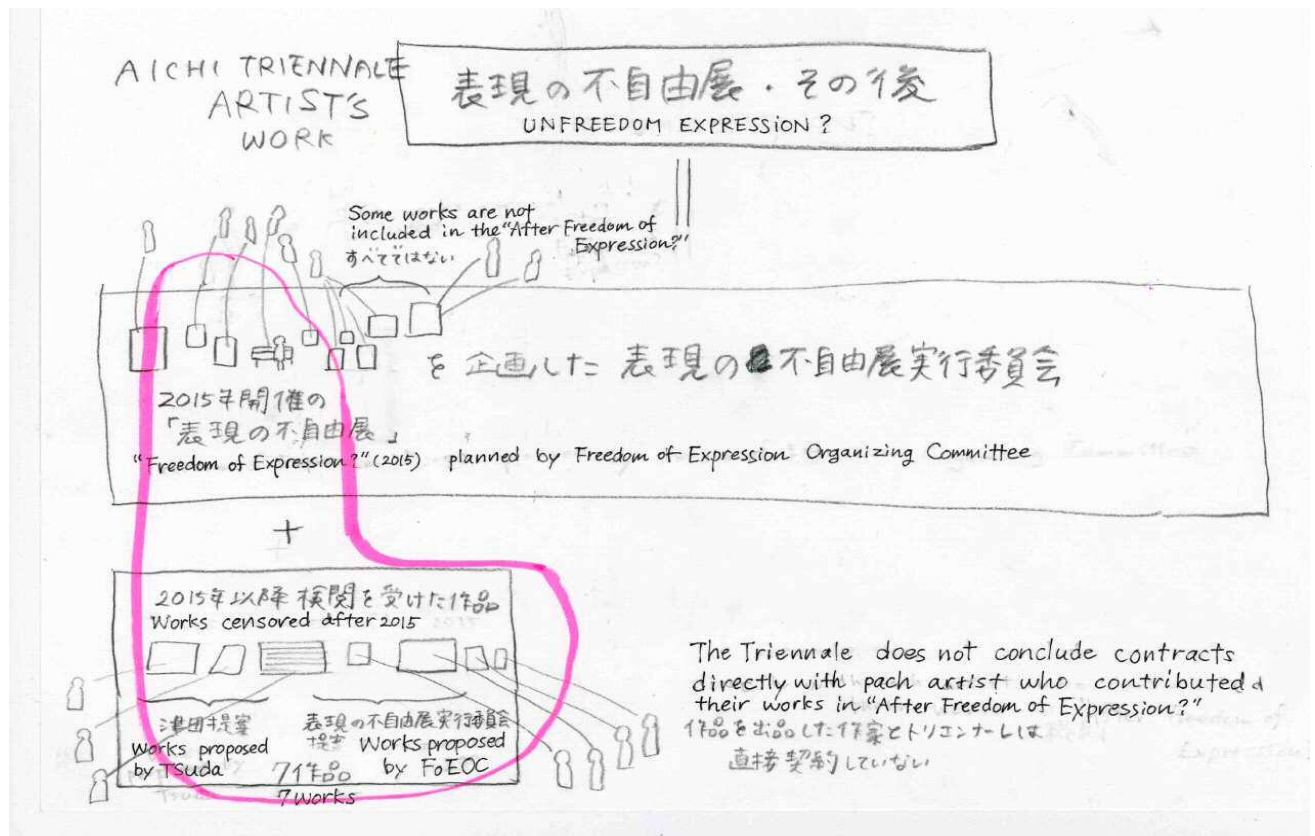
「あいちトリエンナーレ2019」の出品作の一つである「表現の不自由展・その後」について混乱を招いたことにつき、あいちトリエンナーレ2019の芸術監督として、責任を重く受け止めています。ご迷惑をおかけした関係各所にあらためてお詫び申し上げます。

また、大村知事が設置することを発表した「あいちトリエンナーレ2019のあり方を検証する第三者委員会」における調査やヒアリングには積極的に協力し、今回の展示に至った経緯に問題・瑕疵がなかったか、厳しく検証していただきたいと思います。

その上で、現時点で僕が皆様にお話しできることをお話しします。

■

「表現の不自由展・その後」は、2015年の冬に行われた「表現の不自由展」を企画した表現の不自由展実行委員会（以下「不自由展実行委」）の作品です。公立の美術館で検閲を受けた作品を展示する「表現の不自由展」のコンセプトはそのままに、2015年以降の事例も加えて、それらを公立の美術館で再展示する。表現の自由を巡る状況に思いを馳せ、議論のきっかけにしたいという趣旨の企画です。トリエンナーレが直接契約を結んだ参加作家はこの「表現の不自由展実行委員会」です。そのため、トリエンナーレと「表現の不自由展・その後」に作品を出品したアーティストとは、直接契約していません。



僕は、2018年の5月10日（木）にキュレーター会議でこの展示を再び展示することを提案しました。そして1カ月後の6月10日（日）に、たまたま映画『共犯者たち』を東京で上映するイベントを主催していた「表現の不自由展」実行委員会の方に、映画を観た後にお声掛けしました。

2018/12/06 17:25

お疲れさまです。夏の「共犯者たち」の際に、こないだちょっとお話しさせていただきましたが、来年の「あいちトリエンナーレ2019」内で、「表現の不自由展」を展開してもらいたいと思ってます。前回の表現の不自由展のあと、たくさんいろいろなものも展示が拒否されてますし、アップデート版をお願いしたいと考えているのですが、関係者の方にお話しを通していただき、ぜひ新たなチャレンジとしてやっていただきたいのですがいかがでしょうか。

その後、12月6日（木）に、Facebookを通じて正式に依頼しました。2019年2月28日（木）と3月18日（月）の打ち合わせの段階では、僕から不自由展実行委に《平和の少女像》については様々な懸念が予想されるため、実現が難しくなるだろうと伝えていました。しかし《平和の少女像》は2015年の「表現の不自由展」でも展示された作品であり、展示の根幹に関わる

という理由で「少女像を展示できないのならば、その状況こそが検閲であり、この企画はやる意味がない」と断固拒否されました。

キュレーターチームや実行委員会事務局にその旨を報告すると、アーティストの参加辞退というのは前代未聞で、行政としても前例がないと言われました。3月27日（水）には国際現代美術展に出品する全アーティストの発表が予定されており、発表資料は既に印刷所に入校されている段階でした。

国際現代美術展では、3月上旬に1名参加辞退をしたアーティストがいたこと、また3月27日（水）の記者発表の時点ではまだ実現可能性を探っているアーティストがいました。また音楽プログラムや映像プログラムについてはこの時点でまだ参加アーティストが確定しておらず、後から発表することになっていました。

そのため僕は、途中で企画を断念したり、参加を取り下げられることも視野に入れつつ、今後の不自由展実行委や県側との協議に希望を残すことにしました。

「表現の不自由展・その後」にどの作品を展示し、どの作品を展示しないかは、最終的に「表現の不自由展・その後」の出展者である不自由展実行委が決定権を持っていました。僕は、「あいちトリエンナーレ2019」の芸術監督として、いくつかの作品を加えるよう提案し、そのうち、小泉明郎さん、白川昌生さん、Chim↑Pomの3作品が展示されることになり、最終的に、16作家による作品を展示することになりました。また、僕の提案で、表現の自由が侵害された事例の記事や年表など、資料コーナーも用意することにしました。

宮台真司さんからは、「矛盾する二側面を両立させるには工夫が必要ですが、今回はなかった。『表現の不自由展』なのに肝心のエロ・グロ表現が入らず、『看板に偽りあり』です」とのご批判をいただきました。

展示を構成するための不自由展実行委との会議ではまさにその話になりました。展示内容に幅を持たせるため、近年の話題になった公立美術館での「検閲」事例――会田誠さんの《檄》や、鷹野隆大さんの《おれとwith KJ#2》、ろくでなし子さんの《デコまん》シリーズなども展示作品の候補

に挙がりました。しかし、会田さんの作品は不自由展実行委によって拒絶されました。鷹野さんの作品は、一度警察から責任者が逮捕直前まで行った事情に鑑み、そのまま展示することはコンプライアンス的にハードルが高く、とはいえ、完全な状態で展示できないのなら作家に失礼であろうという判断で、展示しないこととしました。ろくでなし子さんの作品は、不自由展実行委が展示したい作品をスペースを優先的に取っていったときに、展示スペースの都合で、候補リストから落ちました。議論の中では「表現の自由を守るためには、自らが不快な表現であっても守らなければならない」という議論も出ました。このあたりは、展示だけでなく、会期中オープンなディスカッションを複数回実施することで、フォローアップあるいは市民も参加する議論が展開できればと考えておりました。

それらの前提を踏まえ、僕個人としては全体を統括する芸術監督という立場上、作品の選定による現場への影響を考慮し、最終決定をすべきだったという考え方もあると思います。とはいえ、事情は複雑で、そもそもの企画が「公立の美術館で検閲を受けた作品を展示する」という趣旨である以上、不自由展実行委が推薦する作品を僕が拒絶してしまうと、まさに「公的なイベントで事前“検閲”が発生」したことになってしまいます。後述するキム・ソギョン／キム・ウンソン夫妻の《平和の少女像》、及び、大浦信行さんの《遠近を抱えて》の関連映像についても、不自由展実行委の判断を優先しました。もちろん、この2作品を展示作品に加えた場合、強い抗議運動に晒されるリスクがあることは理解していましたが、自分の判断で出展を取りやめにしてしまうと同様の事前“検閲”が発生したことになります。芸術監督として現場のリスクを減らす判断をするか、“作家（不自由展実行委）”の表現の自由を守るかという難しい二択を迫られた自分は、不自由展実行委と議論する過程で後者を判断しました。8月3日の記者会見で今回の企画を通したことを「自分のジャーナリストとしてのエゴだったのではないか」と述べたのは、これらの判断のことを指しています。いずれにせよ、最終的に僕は出展者である不自由展実行委の判断を尊重しました。その是非については、第三者委員会の判断を仰ぎたいと思います。その他、トリエンナーレ推進室や、知事、名古屋市などへの報告について瑕疵がなかったかどうかもあいちトリエンナーレのあり方検証委員会に調査いただき、判断いただきたいと思います。

実施の経緯という点について、一点だけ、ボランティアの方々はこの展示内容の報告が遅れた件について説明させていただきます。それは今回の展示を実行するにあたって行っていた「事前対策」の内容と密接に関わります。

不自由展実行委との協議を経て出展作品が決定し、本来は会期1カ月前の6月29日（土）夜に、出展作品について記者発表を予定しておりました。並行して、不自由展実行委と県と、展示を実施した際に予想される懸念点を洗い出し、対策を考えていました。その段階で懸念されたのは主に下記の3つです。

- ①展示場で暴れる来場者対策（常駐警備員の契約、来場者が多い日の委員会メンバーや弁護士の常駐）
- ②街宣車・テロ対策（警察との情報共有、事前のリスク共有、仮処分申請の準備）
- ③抗議電話対策（録音機能付き自動音声案内の導入、クレーム対応に慣れた人員の配置、回線増強）

概ね①はうまくいき、現在でも展示会場での大きなトラブルは発生しておりません。

②が、ボランティアの方々への報告が遅れた最大の要因です。当初は1カ月前から内容を発表することでオープンな議論を喚起し、議論が深まった状態で会期に入ることを目指していました。しかし、県や警察、弁護士に相談する過程で「これは②について相当準備しなければ危険ではないか」という懸念が示されました。とりわけ街宣車やリアルへの抗議は準備に時間が必要であるため、1カ月前に内容を告知すること自体が大きなリスクになる、という意見を様々な専門家からいただきました。様々な議論を経て「警備の安全性を高めるには、会期直前で内容を発表した方がいい」という結論に至り、7月31日（水）の内覧会で初めて発表するということになりました。警備上の理由というやむを得ない判断で、県の上層部とも不自由展実行委とも確認して進めたプロセスです。ただ、結果的にこのことが企画実施の事前の議論、ボランティアの方々への連絡や相談を不可能にしてしまいました。このことについてはボランティアの方々には本当に申し訳なく思っています。仮定の話になりますが、6月29日に企画内容を発表できた場

合、今回と同様の抗議や犯行予告などが殺到し、そもそもこの企画が会期中に開催できなかつた可能性もあつたのではないかと思います。様々な意味でこの選択も難しい判断でした。

そして、問題は③でした。大量の抗議電話が来ることは事前に予想できたため、当初より外部のコールセンターに対応業務をアウトソーシングするという手段は検討していました。しかし行政の文化事業の場合、説明責任も生じるため、安易なアウトソーシングもできないという問題もありました。そのため、会期前までに電話回線を増強するという対応を行いました（2日午後にはさらに追加したと聞いています）。これについては、新国立競技場の建築コンペでザハ・ハディドを選出した建築家の事務所に、抗議電話が殺到した際の数字などを参考に、有識者と検討して決めました。

ただし、この対応にも限界がありました。そもそも、抗議用の特設回線をつくってコールセンターに回しても、大きな事業では抗議がまず本体や本庁に来ることも多く、そこから職員が特設回線を誘導する形だと事務局の電話が塞がり、朝から晩まで本来の業務ができないという問題が解決しません。また、これだけ大規模な行政に対するクレームを民間事業者のコールセンターで引き受けた事例は、これまで1件もないそうです。組織的な抗議電話の炎上対応をコールセンターに任せるとするのは、そもそも現実的な選択肢でないことが今回のことでよく理解できました。

企画がスタートしてからの5カ月間、かなり細かく起こるべき事態を想定して対処してきたつもりでしたが、実際に始まってみると、行き届かないところが多々ありました。

展示内容についてのご批判、県民が内容について議論できるような機会を（警備上の都合だったとはいえ）十分に持てなかつたことへの批判は重く受け止め、今後のトリエンナーレ会期中の企画として、広く県民も参加して議論するような機会を設けたいと考えています。8月12日（月）には今回の参加アーティストが中心となって、観客も交えた第1回のオープンディスカッションが開催されました。今後も定期的にこうした議論を行っていきます。



2019年7月31日（水）の展覧会企画発表後、とりわけ話題となったのは、在韓日本大使館前に設置されたキム・ソギョン／キム・ウンソン夫妻の《平和の少女像》、次いで大浦信行さんの《遠近を抱えて》の関連映像でした。

《平和の少女像》は悪化する日韓関係を背景に、《遠近を抱えて》は、昭和天皇をコラージュした自作を焼くという表現が昭和天皇への冒瀆とされ、双国のヘイトの戦場になりました。連日事務局に大量の電話抗議が（展示中止以降も）寄せられております。

抗議内容については、作品の具体的内容や背景を考慮しないものが多いため、まず簡単に作品の背景についてご説明いたします。

《平和の少女像》の作者は、韓国の彫刻家キム・ソギョン／キム・ウンソン夫妻で、彼らは韓国の「民衆美術」の流れをくむ作家です。民衆美術とは、1980年代の独裁政権に抵抗し展開した韓国独自のもので、一言で言えば芸術を通じた社会運動です。《平和の少女像》は正式名称を「平和の碑」と言い、「慰安婦像」ではない、と作者が説明しています。最大の特徴は、観る人と意思疎通できるように椅子を設けたことで、椅子に座ると目の高さが少女と同じになります。《平和の少女像》には女性の人権の闘いを称え、継承するという意味もあり、作者は像を日本批判ではなく、戦争と性暴力をなくすための「記憶闘争」のシンボルと位置づけています。作者は、2016年にベトナム戦争当時の韓国軍による民間人虐殺を謝罪し、被害者を慰める目的でベトナム民間人虐殺地域と韓国国内に設置された「ベトナムピエタ」（母と無名の坊やの像）を作りました。実際の来場者からは、ウェブサイトには戦争と性暴力をなくすための「記憶闘争」のシンボルとあったが《平和の少女像》は素朴で可憐な印象を受ける。少女像からは老婆の影が伸びていて、メディアで見ていたレプリカや、切り取られていたイメージとは明らかに違うという意見もありました。

《遠近を抱えて》は、1982年から1983年にかけて作られた作品です。大浦さん本人はこの作品についてのインタビューで、昭和天皇の肖像を取り上げたことに対し「自分から外へ外へ拡散していく自分自身の肖像だろうと思うイメージーションと、中へ中へと非常に収斂していく求心的な天皇の空洞の部分、そういう天皇と拡散していくイメージーションとしての自

分、求心的な収斂していく天皇のイメージーション、つくり上げられたイメージーションとしての天皇と拡散する自分との二つの攻めぎあいの葛藤の中に、一つの空間ができ上がるのではないかと思ったわけです。それをそのまま提出することで、画面の中に自分らしきものが表われるのではないかと思ったのです」と語っています。日本人を統合する象徴――アイデンティティとしての昭和天皇。日本人として収斂される自分と、そこから外に出たい自分の両方が葛藤している。その葛藤をコラージュという手法で表現した絵であると作者は述べています。大浦さんは昭和天皇の肖像は日本人としての自画像であり、天皇批判ではないとしています。

同作は展覧会終了後、県議会で「不快」などと批判され、地元新聞も「天皇ちゃかし、不快」などと報道、右翼団体の抗議もあったため、図録とともに非公開とされました。1993年に美術館は作品売却、図録470冊全て焼却しました。今回問題とされている新作の映像作品《遠近を抱えてPartII》では、コラージュした自分の作品を燃やすシーンが戦争の記憶にまつわる物語の中に挿入され、観る者に「遠近を抱える」心の葛藤を、あらためて問うものになっているといいます。一部だけ切り取ってみると、昭和天皇の肖像が燃えているように見えますが、正確には、富山県美術館によって《遠近を抱えて》の図録が焼却された経験を元に、自分の作品、自分のアイデンティティの葛藤を燃やしている作品だということです。

本来「表現の不自由展・その後」は、公立の美術館で検閲を受けた作品を展示するというコンセプトであり、新作の出展はコンセプトになじまないというお話は大浦さんにはさせていただいたのですが、展示の準備段階で《遠近を抱えて》と《遠近を抱えてPartII》は一続きの作品で、《遠近を抱えてPartII》を展示できないのならば《遠近を抱えて》の出品も取り下げるという連絡が大浦さんからありました。2015年の「表現の不自由展」にも出品された同作を出展できないのは、「その後」の趣旨ともずれてきてしまうため、不自由展実行委と協議のうえ、出展が決まりました。これが《遠近を抱えてPartII》が出展された経緯です。

30年近く前に日本人としての自画像を作る目的で昭和天皇の肖像を用いてコラージュした。昭和天皇は日本人を象徴する存在であり、作品ではまさに、自分のアイデンティティの揺らぎが表現されている。そのコラージュ作品が、一度は作品が購入された富山県美術館が、抗議されたことにより



図録が燃やされる事態に発展した。その痛みの経験も込みで、自作を自分で燃やす映像作品を作った。最後に踏みつけているシーンは、日本人としての作者のアイデンティティの揺らぎや、それを表現した作品が焼却されたこと。そしてその事実に関わり悩み続けてきた痛みを表しているといえます。実際に作品を見た来場者からは「作者が長年抱えていた苦悩は、昭和天皇や平成天皇が抱えられていたかもしれない苦悩とも重なるのではないかと思えた」「奇しくも退位され元号が変わったこのタイミングで、過去の日本人と今の日本人としての自分に共通する苦悩も察せられた」という声もありました。

■

それらを前提としたうえで、僕個人の不適切な発言について謝罪いたします。今年4月8日夜に行われた今回のトリエンナーレの企画アドバイザー・東浩紀さんと対談するニコニコ生放送の番組で、「表現の不自由展・その後」の企画説明をしているときに、いくつかの不適切な発言がありました。

1つは、自分を批判する人を見つけたら「クロス」リストに入れると言った発言についてです。これは、アンガーマネジメントの一環として、怒りを覚えた相手について、「クロス」リストに入れることで、その人に対する怒りを静めようとしたものであり、公開する気もなければ、もちろん、実行する気もありませんでした。特定の人に対する怒りを静めるために、怒りを覚えた相手を記録することで怒りを静めるやり方は、日本アンガーマネジメント協会や、累計65万部を突破した『頭に来てアホとは戦うな!』（田村耕太郎著）で推奨されている方法です。あくまで個人としての所感を述べたものではありませんでしたが、トリエンナーレの内容を紹介する番組である以上、アンガーマネジメントとしての「クロス」リストを知らない方々が視聴されている可能性も十分にあったのに、この点についての配慮が行き届いておりませんでした。この発言を聞いて気分を害された人に、深くお詫びいたします。

もう1つは、番組内で天皇制について東浩紀さんに聞かれたときに、「2代前じゃん」などと答えたことです。なぜこのように答えたのかというと、大浦さんの新作の映像作品では若き日の昭和天皇の肖像写真が燃えている

ところが映るのですが、まずこの元になった作品が「日本人としての自画像を表現するために昭和天皇をコラージュした作品」という説明を受けていたこと。また昭和天皇は今上天皇から見て2代前の天皇であるため、これを燃やす映像表現であっても、現在の日本の体制に対する反抗等には当たらないと受け止めていたからです。戦後生まれの僕にとって、天皇とは、敗戦によって元首の座を降り、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴となった以降の昭和天皇であり、上皇であり、今上天皇を指していました。大浦さんの作品に使われていた主権者としての昭和天皇は、僕にとっては、それ以前の天皇と同じように、歴史的、象徴的な存在だったのです。この点については、そうではない人々が抱く感情についてもっと想いを馳せるべきだったと反省しています。

大浦さんの新作の映像作品および平和の少女像については、日本人へのヘイトと感じるとの意見もあります。しかし大浦さんの作品については、大浦さんが自画像として作成した作品が燃やされたことを映像的に再現したものであって、そもそも日本人自体を貶めようとするものではありません。

また、平和の少女像については、僕は次のように考えています。ほとんどの国や社会においては、政府や軍隊、あるいは民衆が、自国民や他国民の人権を抑圧した負の歴史を持っています。しかし、多くの国や社会は、そのような歴史を反省し、繰り返さず、今の自分たちが自国民からそして他国民から尊敬を受けられるように立派に生きていこうとしています。それは、僕たちの日本社会も同様であると、僕は信じています。ですから、自国であった負の歴史を思い起こさせる作品を展示することが、その国や国民に対するヘイトにあたるとは考えていません。従軍慰安婦問題については、彼女たちを集める過程で強制があったか否か、彼女たちを集め、管理する過程で軍隊の関与があったのか否か、あったとすればどの程度のものであったのかについて論争があるものの、従軍慰安婦となった方々の名誉と尊厳を深く傷つけ、彼女たちが慰安婦として数多の苦痛を経験され、心身にわたり癒しがたい傷を負われた耐えがたい苦痛を与えてしまったことについては、日本政府としても心からお詫びと反省の気持ちを表明しています。したがってキム・ソギョン／キム・ウンソン夫妻の《平和の少女像》は、日本政府の歴史認識を超えた歴史観を僕たちに押しつけるもので

はなく、そのような過去を反省し、未来に向けて立派に生きていくことを誓った僕たち日本人を貶めるものではないと考えます。

繰り返しになりますが、「表現の不自由・その後」は、過去に暴力的に封印された作品を集め、そのような封印を行ってしまったことの是非を皆様に考えていただくことを目的としたものです。表現の自由が形式的にだけでなく実質的に保障される社会を目指し、その障害が何であるのかを皆様に考えていただくということは、愛知県や名古屋市などの公的組織が関与した芸術祭においてなされるに相応しいものであったと今も考えています。とりわけ、愛知県は、大村知事の下、芸術文化振興計画を策定して推進されており、その過程で、一部の作品が特定の方々のイデオロギーと衝突し、政治的に偏向しているとレッテルを貼られ、展示の中止等を求められる事態が生ずることも出てくると思います。だからこそ、そのような場合にどうしたら良いかを過去から学ぶ今回の展示は、まさに愛知県と協力して作り上げるあいちトリエンナーレでこそなされるものであったのではないかと思います。

そもそもアートは安心で安全で美しいものだけで構成されるものではありません。時に人の心を大きく揺さぶり、不快感をもたらすようなものも含まれます。あいちトリエンナーレは「国際芸術祭」です。そもそも《いろいろなもの》があるのがアートであり、いろいろなものをまとめて横断的に見られるのが「芸術祭」なのではないでしょうか。作家によってそれぞれの考え方、表現が違うことは、アートの基本的な概念であると考えます。それを受け取る側もいろいろな見方をして相互に議論すればいい。そのために100近くの企画がある中で、その内の1つとして「表現の不自由展・その後」は企画されました。企画の進め方に不備があったこと、想定はしていたものの準備不足だったことに対するご批判は甘んじて受けますが、それでもなお「表現の不自由展・その後」を芸術祭の中で見せることには、大きな今日的意味があったと考えています。そしてそれは、実際に展示をご覧になった方の感想からも伺えます。

■

2019年8月14日にあいちトリエンナーレの企画アドバイザーからの辞任を表明した東浩紀さんは、今回の騒動に際して、①芸術監督である僕の辞任と、②市民との対話を求めています。

①については、トリエンナーレは残り60日もの会期があり、トリエンナーレを楽しみにしてくださっているお客さんのためにも、今回の騒動に際してそれぞれの形で連帯してくださっているアーティストのためにも、最後まで現場監督としてトリエンナーレを無事終えることが自身の責任の取り方であると考えています。8月16日には「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」も立ち上がります。進退等については、検証委員会で一定の結論が出るまでは与えられた職責を果たしていこうと考えております。

②については、前述のとおり、今後「表現の不自由展・その後」の展示と展示中止を巡る問題を議論する場を定期的に設けていきたいと考えています。今後も規模や参加者を変え、同様の機会を会期終了まで継続的に行っていく所存です。ぜひ皆様にもご参加いただければ幸いです。

最後に、観客の皆様及びアーティスト、職員、ボランティアの生命の安全を守るために緊急に決断する必要があったとはいえ、トリエンナーレにおいて何より尊重されるべきである作家の意思を最終確認することなく、「表現の不自由・その後」展の展示中止を決定したことの責任は重く受け止めています。どんな批判であっても甘んじて受け入れようとも思っています。FAXで放火予告をしてきた人こそ逮捕されたものの、それ以外にもたくさんの脅迫が寄せられており、これに対する有効な対策が打ち出せず、「表現の不自由・その後」展の展示再開の目途が立たないことについても、申し訳なく思っております。

他方で、今回のことは日本が自国の現在または過去の負の側面に言及する表現が安全に行えない社会となっていることが内外に示されてしまった出来事であるとも考えています。こんなときだからこそ、芸術や表現の力でその状況に対抗していかなければならないのではないのでしょうか。トリエンナーレはまだまだ続きます。ぜひ実際に自分の目で見て、議論にも参加してください。オープンに議論を行い、現場の警備対策を十分に検討し、すばらしい参加作家たちの作品に焦点が当たっていくようになることで、次のフェーズに進んでいけるのではないかと思います。

皆さんのお力を貸してください。よろしく申し上げます。

[About](#) [Help](#) [Legal](#)



平成 ↓ 令和

# あさ紙

愛知で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」。「表現の自由」が不当な理由によって中止され、問題が起きている。今回のトリエンナーレの芸術監督であるジャン・ラーストの津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。

「男性が6割、女性が4割です。そんな作家が今回のトリエンナーレに参加して行くのは、男性が圧倒的に多い。津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。

現代美術界などに男性作家の割合が高い。津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。

8

その魅力や意義を伝えることができた。今回のトリエンナーレが掲げる「表現の自由」が不当な理由によって中止され、問題が起きている。

「表現の自由」が不当な理由によって中止され、問題が起きている。今回のトリエンナーレの芸術監督であるジャン・ラーストの津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。

「表現の自由」が不当な理由によって中止され、問題が起きている。今回のトリエンナーレの芸術監督であるジャン・ラーストの津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。

## 潮流は変わり始めた

テーマ：芸術界は男女平等になりうるか

### 未来の女性アーティストへ

「やっぴー、ついにベネチア・ビエンナーレ国際芸術展で、日本人女性アーティストであるあなたが金獅子賞を受賞しましたね。思い出すのは二〇一九年に愛知県であった国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」です。僕は芸術監督を務めました。当時の美術界は美大生や、芸術員も、観客も女性が7割近くを占めるにもかかわらず、男性が指導的地位を独占していました。多くの自治体が「男女共同参画」を掲げるのに、芸術祭の参加作家は男性に偏っていました。おかしいと思った僕は、参加作家を男女平等にしました。取り組むのは大きな課題を乗り越え、これ以降全国の芸術祭が男女平等を意識するようになり、女性アーティストが活躍する機会が増えました。セクハラも減ったそうですよ。今や国際芸術祭だけでなく、映画祭も音楽フェスも男女平等がスタンダード。アートは社会の映し鏡ですから、皆さんが世界で活躍すれば、日本社会も元気になります。これからもやりたいことを我慢せず、好きな表現を突き詰めてください。」

津田大介

日本の男女格差 世界経済フォーラム(スイス)によると、今年4月の日本のジェンダーギャップ指数は、調査対象149か国のうち110位と、男女格差が大きい国に位置している。

「表現の自由」が不当な理由によって中止され、問題が起きている。今回のトリエンナーレの芸術監督であるジャン・ラーストの津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。



差出人 津田大介さん (ジャーナリスト)

津田大介さん(48)が掲げた「芸術界のジェンダー平等」。

海外作家書簡に  
津田氏「お詫ひ」

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」(津田大介芸術監督)の企画展「表現の自由展」の企画展「表現の自由展」の中止を受け、11人の海外作家らが出した公開書簡に、津田氏が24日までに回答書簡を送った。津田氏は「書簡が強い憤りや苦悶を感じられたことについて、あらためてお詫ひ申し上げます」と陳謝した。

作家らは24日付で公開書簡を米芸術センターサイトに発表。「国際芸術祭」連携し、展覧会に関わるすべての人に対し、抗議および安全を確保することも義務のことと訴えていた。津田氏は「采女法術・刑事的は予防措置を見出せておらず、私たちが最も苦慮している懸念に回答している。

展示再開求め  
市民らが集会

企画展「表現の自由展」

その後、中止となったことを受け、市民グループ「表現の自由展」の中止を受け、その後の展開をめぐり愛知県民の会などが24日、展示再開を求める集会を開き、声を上げた。

集会は名古屋市中区の愛知県芸術文化センター近くの公園であり、主催者によると約300人が参加した。企画展は愛知県を会場とした少女像を出展した韓国人彫刻家のナム・ソヨンさん(ナム・ソヨン)さんらも参加し、「表現の自由があつて民主主義が完成する。真実をどう隠蔽しているか」と語り、憤りを示した。

主催者集会で、作品には彫刻と見られる彫刻は、韓国の中核を差別への区画としてこのテーマをめぐらした。韓国のナム・ソヨンは「平和の道を閉じていくなど、隠蔽した。たくさん隠蔽があるが、みなさんたちを合わせて頑張りたい」と語った。夫妻は「彫刻家の写真を展示した韓国は、作家の愛国精神の計。人は、中止となった企画展の展示スペースに再開を求め、抗議を掲げた。

不自由展問題 8組展示中止変更

津田芸術監督「心苦しい」

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で24日、メキシコ人の国際現代美術展に出展する海外作家8組が、自作の展示中止や変更を求めた。いずれも「表現の自由展」の中止に対する抗議。その意図を説明し、作品の形を交代するなどで、主催者に訴えている。

大韓民国を代表する8組が展示中止を求めた。不自由展の再開までこの措置を続けるという。

豊田芸術館のナム・ソヨン(ナム・ソヨン)の作品「車輪は相



韓国の作品を新聞紙で覆われたナム・ソヨン(ナム・ソヨン)の作品。2019年8月、愛知県豊田市の芸術館で

した」と説明したという。韓国の作家の夫婦(ナム・ソヨン)の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。

韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。

ナム・ソヨン(ナム・ソヨン)の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。韓国の作家の夫婦は「表現の自由展」の再開を求めた。



毎日新聞  
2019年8月18日 (朝刊)

# 企画展再開 ハードル高し

## トークイベント 津田監督が言及

愛知芸術祭



トークイベントに参加したあいちトリエンナーレ2019「芸術監督の津田大介氏（右端）＝名古屋市中区17日

中止になった問題で、津田大介氏が15日、名古屋市内で開かれたトークイベントに参加し、企画展の再開についてハードルは高いとの認識を示した。津田氏が公の場で語るのは、展覧中止を決めた今年8月以来、初めて。

イベントは美術情報発信する「11企画アートロ」(大塚市)が主催し、市民ら約30人が参加。2010年の第1回芸術祭に愛知県職員として関

わった岩田隆之・大阪市立大学院准教授が、津田氏に疑問を呈し、約2時間行われた。

冒頭、津田氏は「心配と迷惑をおかけし、お詫言ひ上げます」と陳謝。問題発生以降、参加者を定めた開演のトークイベントやシンポジウム、あいちトリエンナーレ、あいち芸術祭の開催が、安全の確保を最優先の課題と見做され、「もっと早く公開の場を設けたら、市民の安全が確保できた」と説明した。

津田氏は愛知県が設置した検証委員会について「リアリズムをこれらから学べるから言いにくい」が、企画展再開はハードルが高いことだと語る。検証委員も月にまとめる中間報告の結果を待ちたいと話した。

企画展の中止が「表現の自由を侵害させたとの批判には『批判は甘んじて受けるが、そもそも日本の社会に表現の自由はあるのだろうか』と疑問を投げかけた。また企画展を巡って相次ぐ政治家の発言について「こんなに政治家が一つの文化事業に発言するのは近代未聞の状況。文化事業と政治の距離が問われかねない」と指摘した。

【名古屋 山田雅生】

中日新聞  
2019年8月16日 (朝刊)

# 不自由展中止を陳謝

津田氏 芸術監督辞任は否定

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が中止になった問題で、芸術監督の津田大介氏が15日夜、おおびと報告する文章を自身のツイッターに投稿し、「責任を重く受け止めている。関係各所におら

ためにお詫言ひ申し上げます」と陳謝した。

また、辞任を求めざるに「残り六十日の会期があり、現場監督としてトリエンナーレを無事終えたいことが責任の取り方」として、辞任を否定した。

津田氏は投稿文で「不自由展」では展覧場で観れ

る芸術祭や街並み・テロ、抗議電話への対策を講じたことと説明。ただ「かなり細かいところまで事態を想定して対処してきたつもりだが、行先届かないところが多かった」と釈明した。

# 不自由展中止いま語る

オビエオン&フォーラム

2019年8月21日(水)

インタビュー

## 社会の「自己検閲」 公の美術館で深刻 負けぬ例目指した

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

あいちトリエンナーレ芸術監督  
津田大介さん



1970年生まれ。ジュネーヴ国立大学卒業。15年4月～16年3月、芸術監督。18年4月からは芸術監督の職。

## 表現の自由とは 批判受け止め 議論尽くしたい

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

「表現の自由」をめぐり、公の美術館で深刻な検閲が行われている。社会の「自己検閲」が、表現の自由を脅かしている。負けぬ例を目指して、津田大介氏が語る。

朝日新聞  
2019年8月21日(朝刊)

# 論壇時評

## 異論と向き合う 分断防ぐ感情的つながり



ジャーナリスト 津田 大介

つだ・だいすけ 1973年生まれ。早稲田大学教授。10月14日まで開催の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」芸術監督。著書に『情報戦争を生き抜く』など。＝長島一浩撮影

- ① 林哲矢「ルポ・アメリカ 若者の反乱」(週刊東洋経済 8月10・17日合併号)
- ② 安富歩「内側から見た『れいわ新選組』」(個人ブログ、7月24日)
- ③ アダム・ピオーリ「誰が社会を分断するのか? フィルターバブル問題を問う」(MITテクノロジーレビュー、8月15日)
- ④ 鈴木大介「亡き父は晩年なぜ『ネット右翼』になったのか?」(デイリー新潮、7月25日)
- ⑤ 平井和子、小島かほり「なぜ兵士は慰安所に並んだのか、なぜ男性は『慰安婦』問題に過剰反応をするのか?」(サイゾーウーマン、8月9日)
- ⑥ 島川絵里「住民680人の島に300人の韓国人が訪れて起きたこと」(47NEWS、8月19日)
- ⑦ 井手英策「『ファシズムへの悪念』中間論議の分配政策を示せ」(毎日新聞 8月22日付朝刊)

あらゆるメディアで「分断」という文字を見れば目にはなびいた。「分断」を朝日新聞のデータベース「関連II」で検索すると、2010年には316件の記事があり、昨年(2018年)には、0.4件(倍率に増加している)。

世界中で明らかになっているのは、保守・リベラルといったこれまでの枠組みへの不満と絶望だ。米国では従来の保守(右)・リベラル(左)の枠組みを踏まえながらリバーリアン(右)と新・社会主義(左)に分かれ、新しい政治運動になりつつある。双方の若者たちが取材した林哲矢は、金融資本主義が米国内に不平等をもたらしているとして共通の問題意識があるが、「原因の認識とそこを

ら導かれる処方箋が正反対」と指摘した。リバーリアン(右)個人の自由の観点から政府の介入を減らして真の「機会の平等」を実現すべきと考える新・社会主義者(左)は、政府の積極的な介入を求め、結果の平等を志向する。

そこから、サンダーズに熱狂した米国の新・社会主義者、先日の参院選で大きな番狂わせを起こしたれいわ新選組の共通点が見える。同党から立候補した安富歩は、れいわ新選組が人々の心を捉えた理由を、網野善彦の「無縁の原理」を引きながら解説した。⑧ トランプ

スピンナーや悪意のある所屬組織に反旗を翻した者まで、同党の候補者は一般的に、政治の舞台から排除されてきた「無縁者」だ。保守・リベラルといった枠組み「がらみ」に囚われない候補者を集めたことが「れいわ新選組」の基本的な原則だ。⑨

新・社会主義者が支持するサンダーズやオカシオコルテスは、公立大学の授業料無償化を政策として打ち出しているが、れいわ新選組も同じ政策を掲げている。日本でも、これらがもたらす抑圧、そこから自由になろうとする解放への要求が大きな目標になっている。

分断は若者世代の語に留まらず、米国の政治的分断を検証した2018年の研究によれば、65歳のグループが若者より政治的分断が進んでいるという結果が出た。⑩

日本でも嫌韓嫌中意識で裏打ちされた「ネット」を好む高齢者が増えている。鈴木大介は、父親という自らに最も近い存在の「一人がなぜ『ネット右翼』思想に染まっていたのか、個人的な体験として語る。⑪

鈴木は、真面目な労働者として人生で成功を収めた父親が晩年「ネット右翼」に変わっていた背景に、父親が若者目に見えて「古き良き美しきニッポン」への郷情と喪失感があったと語る。平井和子も、ジェンダー研究家の視点から「新自由主義の競争社会の中で、孤立感や構成員の希薄化が進んで、保守派が唱える家族・郷土・国家などの共同体理想へ飛びつく」ことになると「男性が陥りがちな古風化の懸念」を語っている。⑫

若者や高齢者の間で起きている分断に共通するのは、枠組みから外れた孤立感や失われた希望からくる不安感だ。

時間自分と同じ価値観の意見に触れることで自身の価値観がより強固に覆り固まる「フィルターバブル」という現象があるが、同ラポのマーチン・サウエスキによれば、「人々が反対意見に対して感じる感情を変えていくことで、フィルターバブルを乗り越えられる可能性がある」といふ。実験では、参加者が自身と反対の意見に出会うたびに、「自分の友達と意見が合わない」と考えやすくなった。促された参加者は、反対意見を持つ人と会うときに対話が成立する可能性が高くなり、なぜかその人が反対の意見を持っていたか理解できるようになった。⑬

国家同士の間隙が最悪であった。個人個人はつながることができ、一回ネットの研究は、その間に一定の科学的紐帯を与えるものとも言えた。

フィルターバブルの各付は、ネット上で分断せず感情的に政治議論を交わす所は、スポーツチームのファン向け掲示板だ。⑭

全員がそのチームのファンである前提を共有している。意見が違っても怒りや憎悪、対立の前には感情的なつながりであれば、分断を防いでいくことができた。⑮

しかし、分断しようとする手と社会的関係を築いていくという相反の可能性が高まる。⑯

それが憎悪表現であっても認められるかという根本的な疑問は残る。

感情で分断を越える試みとしては、大分県佐伯市にある人口6800人の韓国入籍者が訪れるようになった。⑰

韓国人観光客の急増に当初は韓国民間企業が驚いた。だが駐在所に韓国語でできる完全委託巡回部長が着任した。⑱

韓国民からの要請で韓国語講座が開かれるようになった。⑲

荒金巡回部長によれば、「韓国語を勉強して、韓国民が一言一句話して、韓国民の安全につながることを考えたのだ」といふ。

増税で社会保障を充実させ、中間層への分配を主眼とする井手英策は「中間層の衰退、政治的機能不全、社会的なつながりの弛緩」という時代状況を見れば、サンダーズやオカシオコルテスと異なる社会的な連帯感や感情を形成するかが課題であると説く。⑳

大入島の事例は「1」サンダーズやオカシオコルテスと異なる社会的な連帯感」の指標となるはずだ。

「表現」  
CG・小阪啓

現代社会をイメージした作品を毎月掲載しています。

小阪啓さんの今月のCG作品は、大部分が空白になっていますが、四隅までご覧ください。どのような感じになるでしょうか。

「論壇時評」は毎月の最終木曜日に掲載しています。「あすを探る」は論壇委員6人が交代で書きます。宮城さん、治部れんげさん、曾我部真裕さん、安田洋祐さん、牧聖子さん、

この分断を埋めることはできるのか。興味深い研究がMITメディアラボで進んでいる。⑳

ソーシャルメディアで長

論壇委員会から

戦前に創設された中断した小坂の「論壇時評」は、1959年12月に再掲載されました。その時の指揮者は休業者の森原武夫さん。以後、筆名が掲載面形式を変えながら、とんち問題などのように議論がなされてきた。60年代後半に

「あいちトリエンナーレ2019」の企画・街頭の自由出版の後の展示中止をめぐり、芸術監督の津田大介さんは対応に追われていますが、論壇時評は月おくりで同じようにお届けします。展示中止については小坂を津田大介との関係は、21日朝刊のオビ面に再掲載されています。

(監修) 津田大介

# 「理解求める時間足りず」

## 少女像展示問題

### 運営巡り実行委と議論も

国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で、いわゆる従軍慰安婦を象徴する少女像の展示が中止になるなどした一連の問題で、芸術監督を務める津田大介氏(45)は、読売新聞の単独インタビューに答え、「1か月前に少女像などの展示を発表して、いざよかったですか」と今回の原因の一つ、展示への理解を求める時間の不足を挙げた。

### 津田大介監督に聞く

あくまでも仮定の話とし「1か月前に発表した場面で、少女像などの展示」合、「パブリックな議論に



インタビューに答える津田氏(27日、名古屋市中区)＝橋本博彰

◇つだ・だいすけ 1973年生まれ。ジャーナリスト。早稲田大学文学学術院教授。メディアとジャーナリズムなどを専門に執筆している。2017年に芸術祭の芸術監督に就いた。

なり、その結果、展示を続けられたかもしれないが、一方で開幕前の忙しい時期に、苛烈な抗議で事務局がマヒしたかもしれない」と話した。

7月31日	津田大介氏が記者会見で、少女像展示について「(抗議への対応など)は考えていない」とコメント
8月1日	あいちトリエンナーレ2019開幕。抗議・意見の電話が殺到
2日	河村たかし名古屋市長が展示を中止するよう抗議。電話対応を8人増員し、回線も増設
3日	大村秀章知事、展示の中止を発表
6日	少女像展示の運営メンバーが大村知事宛てに公開質問状を提出
7日	津田大介氏に抗議のファクスを送った福井市の男を威力業務妨害の疑いで逮捕。抗議の電話などが延べ4800件に達する
13日	大村知事が定例記者会見で少女像について「展示をやめたい」と津田氏に伝えたことを明らかにした
16日	有識者による検証委員会が初会合
20日	海外作家8人が展示を中止・変更
25日	国内の作家約10人が一連の問題について、中立的立場から討論会

「公金を使うからこそ口出しすべきでないと思う。少女像などの展示そのものの適正さが疑われており、(県が設置した)検証委員会に検証してもらおう」とした。

自身の責任については、「辞任は、トリエンナーレを元の姿に戻すのを放棄すること。作家たちも許さないうる。最後まで務め、いかに100%に責任を担うか、それが責任の取り方」と辞任を否定した。

### 少女像 展示再開は困難

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」でいわゆる従軍慰安婦を象徴する少女像などの展示が中止された問題を巡り、芸術監督の津田大介氏(45)が読売新聞の単独インタビューに応じた。津田氏は展示再開について「乗り越えなければ



質問に答える津田大介氏(名古屋市中区)

### トリエンナーレ 津田芸術監督

いけないハードルがたくさんあり、現段階では何も言えない」と述べ、事実上困難との見方を示した。津田氏は展示再開の条件として、①抗議電話対策②警備態勢の強化③脅迫事件の容疑者逮捕④オープンな議論⑤県が設置した検証委員会による中間報告⑥「五つ」を挙げた。特に抗議電話対策では、電話回線を増やすなどしたものの、「県の芸術祭以外の部署に脅迫電話がかかる場合などへの対応が難しい」と、有効な手立てがないと明かした。また、抗議が殺到した原因

### 「ハードルたくさんある」

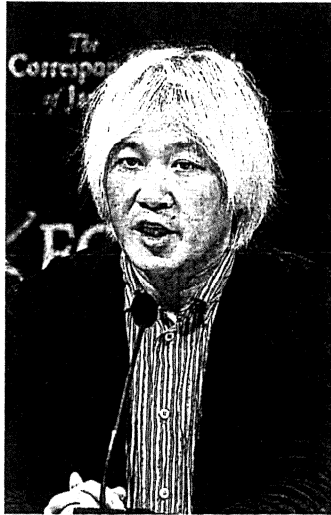
少女像などの展示中止後も、芸術事務局に対する抗議の電話やファクスは続いており、参加作家や関係団体などによる抗議の声明も相次いでいる。有識者による検証委員会は9月下旬の第2回会合で中間報告を行うほか、同月中には幅広く意見を聞く公開フォーラムも開かれる。

## 不自由展 警備・脅迫対策訴え

### 津田芸術監督ら 外国特派員協会で会見

展示「表現の不自由展・その後」が中止された問題で2日、津田大介芸術監督と展示の実行委員会のメン

バーがそれぞれ、東京の日本外国特派員協会で会見を開いた。津田監督は不自由展の再



記者会見する芸術監督の津田大介氏＝2日午後、東京都千代田区、仙波理撮影

開について、今後発表される検証委員会の中間報告を踏まえるべきだとした。また「脅迫メールに対する捜

査の進展」「会場の警備態勢の強化」「電話抗議・脅迫への対策」などの問題を解決する必要があるとの認

識を改めて示した。一方、展示の実行委は、大村秀章・愛知県知事に再開のための協議を申し入れている。会見で実行委の岡本有佳さんは「（中止は）安全の問題だというのが、表現の自由を侵害した行政の判断は検閲に当たる」と批判。「抗議電話に対応する職員の事前研修が実施されないなど、準備が十分でなかった」と指摘した。（千葉恵理子）

## 津田氏「抗議で職員疲弊」

### 愛知の企画展中止理由説明

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が中止になった問題で、芸術



日本外国特派員協会で記者会見する津田大介氏  
2日午後、東京・丸の内

祭の芸術監督を務めるジャーナリストの津田大介氏が2日、東京都千代田区の日本外国特派員協会で記者会見し、中止の経緯や背景について説明した。

中止の大きな理由として津田氏は「職員、ボランティア、スタッフの疲弊」を挙げた。多くの抗議電話が寄せられるとみて準備をしたものの、想定を超え、「（実行委員会）事務局の機能がまひしたことや、脅迫に直面したこと」で職員のストレスも非常に大きくなった。このままでは円滑な運営ができず、苦渋の決断」と話した。自身の責任問題については言及しな

った。

企画展では、元慰安婦を象徴する「平和の少女像」や、昭和天皇の肖像を燃やすよつな映像が出品され、名古屋市の河村たかし市長ら一部の政治家が批判。こ

うした発言が中止の原因につながったかについて、津田氏は「政治家の圧力が原因ではない」と強調した。津田氏の会見直後には、「表現の不自由展・その後」の実行委員会メンバー

3人が記者会見。「作品を見せないようにしたこと、表現の自由を侵害した行政の判断は検閲にあたる」と話し、中止を決断した愛知県の大村秀章知事らの対応を批判した。

# 津田大介氏「表現の自由 転換点」

国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が開幕3日で中止になった問題で、芸術祭の芸術監督でジャーナリストの津田大介氏(45)が4日、毎日新聞のインタビュアーに話した。津田氏は「表現の自由を後退させた」という批判は甘んじて受け入れる。この問題をどう解決するかで、日本の表現の自由の転換点となる」との認識を示した。

津田氏は展示を中止に追い込んだ「想定外の事態」について、▽日韓関係の急速な悪化▽政治家の介入▽京都アニメーション放火殺人事件を連想させる脅迫を挙げた。

## 愛知芸術祭 企画展中止



インタビューに答える津田大介氏—名古屋市東区で4日、兵藤公治撮影

表現の不自由展を企画した18年5月時点では韓国で元徴用工裁判の最高裁判決も出ていなかったが、今年7月に半導体部品輸出規制で日韓関係は悪化の一途をたどった。

この状況下で元従軍慰安婦を題材にした企画展の「平和の少女像」に注目が集まり、抗議の電話が殺到。津田氏は「準備不足」という批判もあるが、3日で中止になった企画展は、現在の

### 「禍根残さない結末に」

日韓関係を象徴している」と語った。

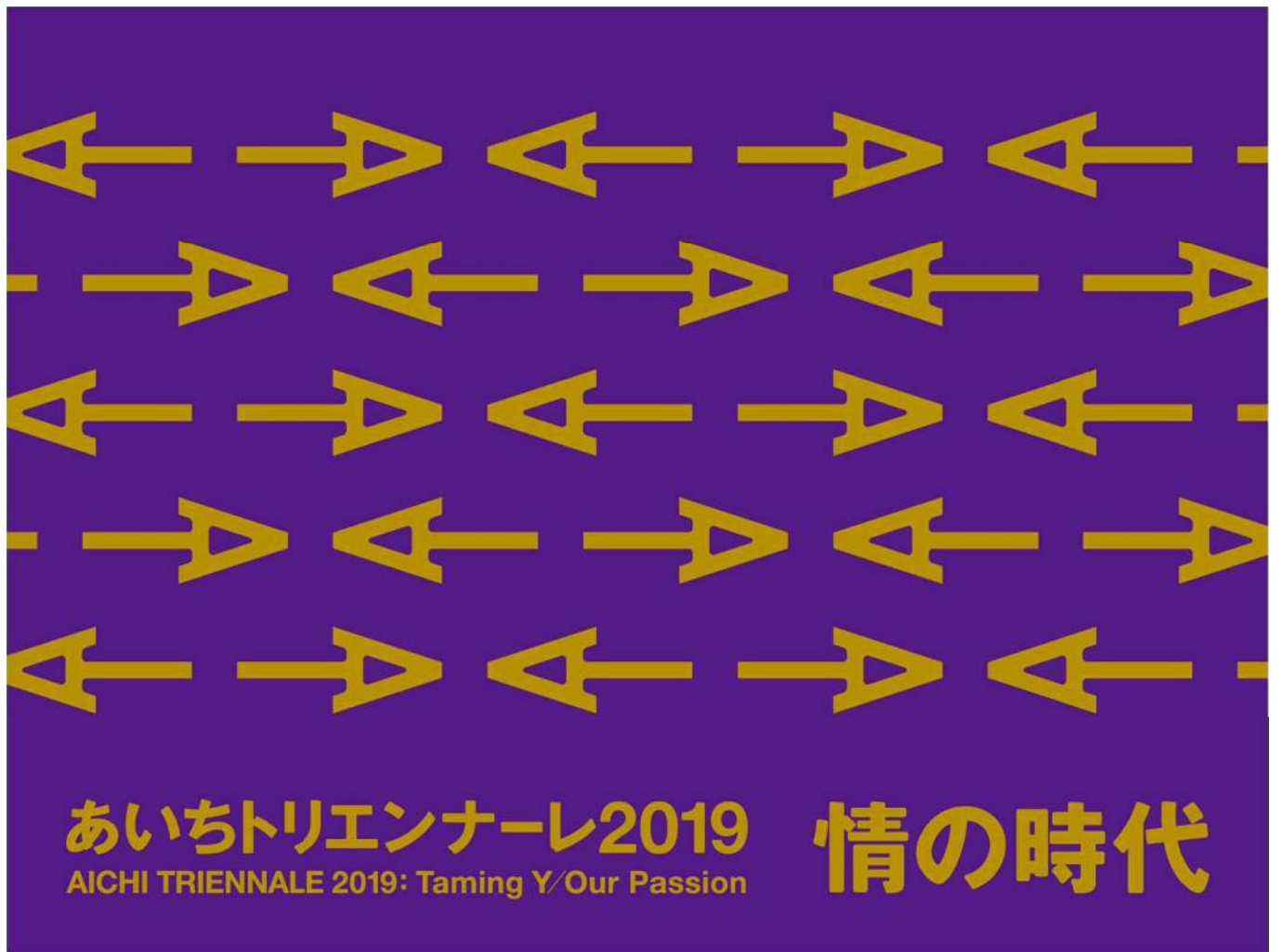
また「憲法21条で表現の自由は保障されており、政治家は芸術への介入に抑制的であるべきだ」と指摘。「ガソリン携行缶を持っていく」といった京アニ事件を連想させるテロ予告のフアクも届いたことについては「事件の生々しい記憶がある中で衝撃は大きかった」と振り返った。

企画展再開の可能性は「20、30%」と事実上困難との見解を示した上で、VR(仮想現実)映像を活用して展示内容を見せる方法も示唆した。不自由展以外も海外作家による展示停止や展示の変更に発展しているが、「このまま終わってしまうと日本の芸術や芸術祭にも大きな禍根を残す。そうならないような結末にしたい」と力を込めた。

【竹田直人、山田泰生】







あいちトリエンナーレ2019  
AICHI TRIENNALE 2019: Taming Y/Our Passion

情の時代

## 表現の不自由展・その後

After "Freedom of Expression?"

情の時代  
あいち  
トリエンナーレ  
2019  
AICHI TRIENNALE 2019  
Taming Y/Our Passion



# 表現の「不自由」 再び問う



2015年の「表現の不自由展」の様子。中止が通告された写真展に  
出展された元慰安婦の写真（左）や、慰安婦をモチーフにした少女  
像（中央奥）などが展示された＝15年1月20日、東京都練馬区

## ■「表現の不自由展・その後」の主な作品（敬称略）

作家	作品名(制作年)	展示できなかったいきさつ
安世鴻	重重—中国に残された朝鮮人日本人軍「慰安婦」の女性たち (2001～)	12年5月、東京・新宿ニコンサロンでの「元慰安婦」の写真展で、ニコンが開催前に中止通告。東京地裁の仮処分決定で開催
中垣克久	時代の肖像—絶滅危惧種 Idiot, JAPONICA 円環 (2014)	14年2月、東京都美術館での彫刻展で、「現政権の右傾化を阻止」などと記した作品に対し、鑑が撤去要求。作家は一部を修正
白川晶生	群馬県朝鮮人強制連行追悼碑 (2015)	17年4月、群馬県立近代美術館で展示予定だった。県内の追悼碑をモチーフとした作品に対し、鑑の指導で撤去。「一方の主張ととられる懸念」と同僚
小泉明郎	空気 #1 (2016)	16年3月、東京都現代美術館での「キセイノセイキ」展で、天皇をモチーフにした作品の出品を断念
岡本光博	落米のおそれあり (2017)	17年11月、沖縄県うるま市のアートイベントで、米軍機の墜落事故をモチーフに、商店のシャッターに描いた作品に、地元自治会が「ふさわしくない」と反対。非公開に

今回の企画展は、2011馬のキャリで15年に開  
2年に東の新宿ニコンサ  
ロンの「表現の不自由展」の編  
に於ける、韓国写真家安世  
鴻さんによる元慰安婦の写  
真展をいったん中止した  
問題を引き継ぎ、市民に  
田大介さんは、15年の表現  
による実行委員会が東京・練馬の「不自由展を鑑賞し」表

## 少女像・9条俳句…「考える場」に

現の場から排除された作品  
群に衝撃を受けた」とい  
う。昨年、当時の実行委員  
に再び開催することを打  
診。新たに結成したり人の  
たまりの公民館だよりへ  
の掲載を拒否された俳句9  
条をテーマにした俳句な  
進めてきた。

「あいちトリエンナーレ2019」  
で、企画展「表現の不自由展・その後」  
が開かれる。愛知芸術文化センター(名  
古屋市東区)を会場に、様々な理由で表  
現の場を奪われたという二十数点の作品  
が展示される。なかには、慰安婦をめぐ  
って日本と韓国との間で論争になってい  
る少女像も含まれる。

### 名古屋で企画展

#### 「平和の少女像」

2011年12月、韓国ソウルの  
日本大使館前で元慰安婦らが  
人権回復を訴えて開いてきた  
水曜デモの1千回を記念し、  
支援団体が建てた。韓国内外に  
100体以上ある。日本政府は、  
少女像が在外公館の安寧や威  
厳の維持を定めたウィーン条  
約に抵触するとして撤去を求  
めてきた。15年の日韓合意で  
は、大使館前の像について韓  
国政府が「適切に解決される  
よう努力する」と表明した。

2015年の「表現の不自由展」  
で展示された「平和の少女  
像」(左)とミニチュア像  
(右)＝岡本有住さん提供

2019.7.31  
朝日新聞朝刊

少女像は、韓国彫刻家  
のキム・ソクソンさんと天  
のキム・ウンソンさんが  
「元慰安婦の苦痛を記憶す  
る」ための象徴として手が  
けた。今年15年と同  
じ日体展示する。このう  
ち、韓国の日本大使館前  
などに設置されている像のミ  
ニチュアは、12年に東京都  
美術館で展示されたが、途  
中で撤去されたものだ。公  
立施設での展示は、それ以  
来となる。

元慰安婦への補償問題な  
どで日韓関係が悪化するな  
か、主催者側には、会場で  
の妨害活動などを懸念する  
声もあつたが、警察なども  
も連携して警備を整え、展  
示することを決めた。

津田さんは「感情を揺さ  
ぶるのが芸術的な」という  
理由で、自由な表現が制限  
されるケースが増えている  
。政治的圧力を感じる画  
展では、実物を展示する  
「それだけが判断する場を提  
供したい」と話している。(後略)

## 河村市長「少女像展示中止を」

### 愛知の芸術祭 知事に抗議文提出

愛知県で開かれている園  
妻が手がけた「平和の少女  
像」で、憲法9条をテーマ  
にした俳句など、美術館か  
「芸術監督」の企画展「表  
現の不自由展・その後」で  
展示されている。慰安婦を  
河村たかし・名古屋市長  
は2日、大村秀章・愛知県  
知事に対し、展示中止を含  
めた適切な対応を求める  
抗議文を提出したことを明  
らかにした。「日本国民の  
心を踏みにじる行為で、行  
政の立場を超えた展示が  
行われている」などとして  
少女像は韓国人彫刻家夫  
妻が手がけた「平和の少女  
像」で、憲法9条をテーマ  
にした俳句など、美術館か  
ら撤去されるなどした作品  
とともに展示されている。  
国際芸術祭の実行委員会  
は県や名古屋市長、経済団体  
などで構成され、大村氏が  
会長、河村氏は会長代行を  
務める。



「平和の少女像」と元慰安  
婦の写真＝名古屋市長

県によると、トリエンナ  
ーレの開催事業費は県、名  
古屋市などが負担。国の補  
助金も支出される予定。河  
村氏は「税金を使っている  
から、あたかも日本国全体  
がこれを認めたように見え  
る」と語った。

さらに、インターネット  
で企画展に対する批判や主  
張者側への抗議の電話が相  
次いでいることについて  
「それこそ表現の自由じゃ  
ないですか。自分の思った  
ことを堂々と発言はいい」  
と述べた。

河村氏は大阪市の松井一  
郎市長から少女像の展示に  
ついて「どうなっているん  
だ」と電話があったことを  
明かした。松井氏は報道陣  
の取材に「日本で公金を投  
入しながら、我々の先祖が  
けたものに取り扱われる  
ような展示物を展示される  
のは違うのではないかと」  
と話した。(福川豊彦)

### 菅氏、補助金交付「精査する」

「平和の少女像」が展示さ  
れていることについて、菅  
義偉官房長官は2日午前の  
閣議後会見で「補助金交付  
の決定にあたっては、事実  
関係を精査、精査して適切  
に対応したい」と述べた。

芸術祭は文化庁の助成事  
業で、補助金交付の決定は  
これからだといふ。菅氏は  
「審査時点では具体的な展  
示内容の記載はなかった」と  
説明。改めて展示物を確  
認した上で、補助金交付の  
是非など対応を検討する考  
えを示した。

柴山昌彦文科相は会見で  
「事業の目的と照らし合わ  
せて確認すべき点が見受け  
られる」と指摘した。

また、自民党の保守系議  
員でつくる「日本の尊厳と  
国益を守る会」は2日の会  
合で、「平和の少女像」の展  
示に関して「芸術や表現の  
自由を掲げた事実上の政治  
プロパガンダだ。公金を投  
じるべきでなく、国や関係  
自治体に適切な対応を求め  
る」との意見表明をした。

2019.8.3  
朝日新聞朝刊

# 表現の不自由展 中止

## テロ予告・脅迫相次ぐ

愛知県内で1日に開幕した国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」（津田大介芸術監督）の実行委員会は3日、企画展「表現の不自由展・その後」を中止すると発表した。企画展では、慰安婦を表現した少女像などを展示。抗議の電話が殺到するなどしていたため、津田氏らが内容の変更を含めた対応を検討していた。

▼2面▶抗議エスカレート、31面▶来場者は

### 津田芸術監督「断腸の思い」

芸術祭の実行委員会会長を務める大村秀章、愛知県知事は3日夕、記者会見を開き、「テロ予告や脅迫の電話などもあり、これ以上エスカレートすると、来場客が安心して楽しむことが難しくなり、危険になる」と中止の理由を述べた。「撤去をしなければ断腸の思い」と語った。一方、「リスクの想定、必要な対応は識者にも話を聞いてきたが、想定を超える事態が起こったことを謝罪する。僕の責任」と話した。今後は企画展に出品した作家に対し、中止に至った経緯を説明し、謝罪をする考えを示した。

### 許されない脅迫 考える場奪った

多くの人が声を高め、息を殺して見ている。開幕2日目にあいちトリエンナーレを訪れ、一般来場者とともに「表現の不自由展」の展示室を見たが、通常の展覧会では見られない空気が漂っていた。芸術監督の津田大介氏が、過去に文化施設で展示が不許可になった作品を見せることで、「表現の自由」について再度、議論したいという狙いは十分に理解できる。大量の情報によって感情があらわれているという時代認識から「情の時代」をテーマに掲げる今回のトリエンナーレに合ったものだったが、それが中止に追い込まれた。

その直接的要因となったという卑劣な脅迫めいた電話などによる行為は、断

企画展は愛知芸術文化センター（名古屋市中区）を

（黄徹、前川浩之）

2019.8.4  
朝日新聞朝刊

# 表現の不自由展 政治家中止要請

## 憲法21条違反か 応酬

国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」（津田大介芸術監督）の企画展「表現の不自由展・その後」が中止された波紋が広がっている。実行委員会会長の大村秀章・愛知県知事と会長代行の河村たかし・名古屋市長が、表現の自由を保障する「憲法21条」を巡って鋭く対立。中央政界や美術界などからも、表現の自由を巡る発言が相次いだ。

▼オピニオン面▶社説、文化文芸面▶大きな問い

### 大村知事と河村市長

「一連の発言は憲法違反の疑いがきわめて濃厚だ」  
5日午前、定例会見に臨んだ大村知事は、河村市長から送られた抗議文を手に語気を強めた。

焦点となっている作品は、慰安婦を表現した少女像や、昭和天皇を含む肖像群が燃える映像作品。少女像は、韓国人彫刻家のキム



会見する大村秀章・愛知県知事5日午前、愛知県庁

会見する名古屋市の河村たかし市長5日午前、名古屋市長所

「遠近を抱えてPart II」も今回出品していた。河村氏は2日に会場を視察した後「日本国民の心を踏みにじる行為であり許されない」などとする抗議文を大村氏に出し、展示中止などを求めた。日本維新の会の杉本和巳衆院議員（比例東海）も3日、公的な施設が公的支援を支えられて行う催事として極めて不適切として、展示の中止を求める要請書を出していた。実行委事務局などには1日の開幕以来3日間、3千件近い抗議の電話やファクス、メールがあり、中には「撤去しなければガソリン」携行缶を持ってお邪魔する」というファクスもあったという。このため大村氏と津田氏が協議し、来場客の安全や芸術祭全体への影響を考慮し、3日夕に中止を発表した。

大村氏は5日の会見で、「税金で（展示会を）やるからこそ、表現の自由、憲法21条は守られなければならない」との考えを示した。河村氏に対して「公権力を持つ立場の方が、この内容は良くて、この内容は

2019.8.6  
朝日新聞朝刊

# 展示保留・休止動き拡大

## 海外作家 不自由展中止を批判

愛知県内で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」（津田大介芸術監督）で、海外作家が作品公開の「保留」を求めたり、作品展示を「休止」したりする動きが出ている。企画展「表現の不自由展・その後」が、テロ予告や脅迫を含め、抗議が殺到したため、開幕3日で中止となったことに対し、作家らは表現の自由を重視する姿勢を示すためと説明している。

### トリエンナーレ

#### 「検閲された作家に連帯」

90組以上の芸術祭参加作家のうち、11組の海外作家と芸術祭の国際現代美術展「キュレーター」（展示企画者）の1人が連名で、12日

留」を求めた。9組の作品はまだ公開中で、芸術祭事務局は「作家と協議中」としている。

書簡は企画展の中止を「検閲」と批判し、「検閲された作家への連帯を示すため」の保留だと強調。脅迫ファクスなどの安全上の理由で中止した判断に「同意しない」とし、警察など「対応すべき当局がスタッフや来場者らの安全を保護することが芸術祭の責任だ」と訴える。

署名したキュレーターのペドロ・レイエス氏は朝日新聞の取材に「キューバで当局と闘って表現してきた作家もいる。私の母国メキシコでは表現の自由を行使した記者が亡くなっており、穏やかな立場は取れない。芸術祭スタッフや津田監督への攻撃ではない」と話した。



2019.8.15  
朝日新聞朝刊

## 中止の理由

- ① 職員の疲弊（職員の温度差からくる不協和音）
- ② 組織機能が一時停止
- ③ 円滑・安全な運営の担保ができない
- ④ ガソリンテロ予告FAX犯の捜査が進まなかった

# 主な論点



- ▶ 中止は「検閲」か否か？
  - 政治家の圧力が中止の原因か？
- ▶ テロに屈したのか
- ▶ 「電凸」に弱い行政機関の脆弱性
  - 集団で抗議マニュアルが共有され多方面に拡散
- ▶ 行政の文化事業における中立性
  - 「公金」を使う内容として適切だったか？
  - 文化芸術基本法の基本理念
- ▶ ガバナンスの問題
  - 事前告知をして議論すべきだったか否か

# 不自由展との認識の違い



- ▶ 「今回の中止決定は、私たちに向けて一方的に通告されたもの」
  - 認識が異なる。8/2の夜に中止決定を伝えたのち、8/3朝一度決定を白紙に戻し、3日の運営状況を見て決めることに。当日は適宜状況を報告し、不自由展実行委の意見も知事にあげながらそれでも円滑な運営は無理と判断した
- ▶ 「警察への報告をサボタージュした」
  - 事実と異なる。脅迫FAXもメールも届いた当日から警察に相談済み。被害届を受け取ってもらえたのはFAXが4日後。メールが9日後だった

# 不自由展再開について



- ① 脅迫メール犯の捜査進展
  - ② 会場警備体制の強化
  - ③ 苛烈な電話抗議・脅迫・晒し対策
  - ④ 検証委員会の中間報告
  - ⑤ 不自由展作家、不自由展実行委、トリエンナーレ参加作家、愛知県民その他有識者とのオープンディスカッション
- これらを経て次の段階に進める